



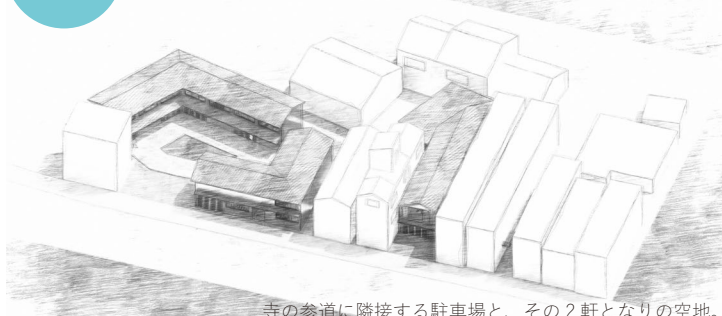
張本 美晴
鳥海研究室

リトル・アーティスト・ビレッジ / ストリート

敷地：谷中・根津・千駄木
用途：シェアハウス

Little Artist Village / Street

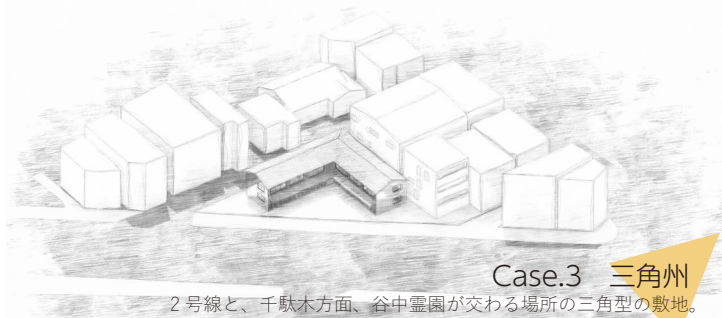
リトル・
アーティスト・
ビレッジ
/ ストリート



寺の参道に隣接する駐車場と、その2軒となりの空地。

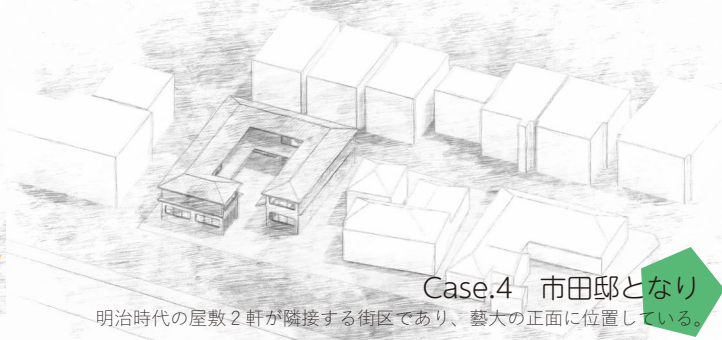


彫刻家による自邸。現在は美術館となっている。



Case.3 三角州

2号線と、千駄木方面、谷中霊園が交わる場所の三角型の敷地。



Case.4 市田邸となり

明治時代の屋敷2軒が隣接する街区であり、藝大の正面に位置している。

現在、空いた土地はマンションや駐車場に改修されるケースが多い。

しかし、近年の人口減少、車の所有率の低下などにより、需要は減っていくと考えられる。

その土地を使い、より町のためになるような、町の特性を活かした建物を作るのではないだろうか。

本設計では、谷根千エリアの「空き地」（駐車場、マンション計画地）のうち、特に特色のある4つを敷地として選定した。

この4つの土地は、補助92号線計画地（現在は廃止）沿いにあり、観光、寺+住宅、アートの各エリアをつなぐように位置している。

谷根千周辺は、芸術のまちとしての側面を強く持っており、芸大や、ギャラリー、ものづくりの店などが多数存在している。

そこで、若手のアーティストを育てるための場所として、アトリエ・店舗を兼ねたシェアハウスを提案する。

背景

/Background

敷地

/Site

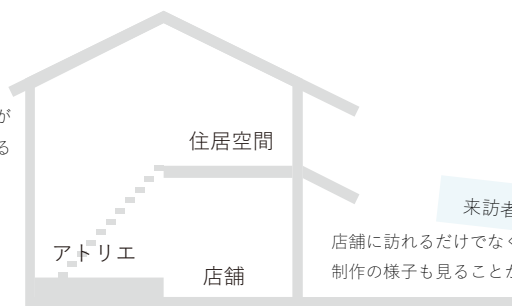
提案

/Suggestion

アーティスト

アトリエとプライベート空間が
つながり、生活空間になる

収入を得るための空間を設け、
生活と仕事を近づける



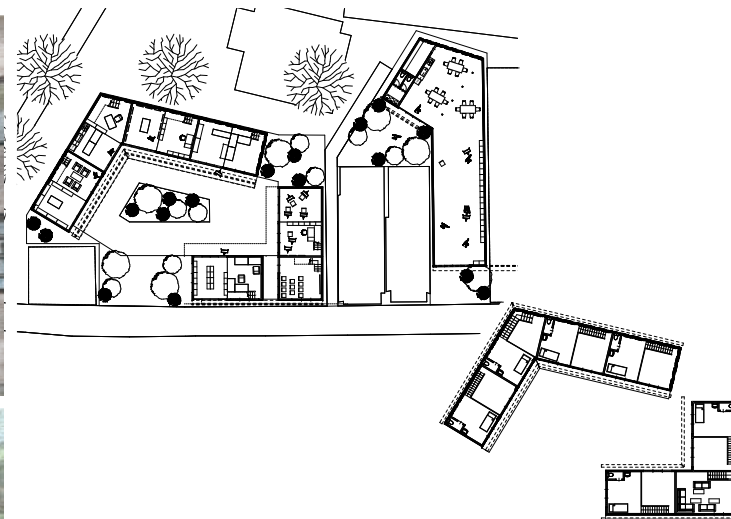
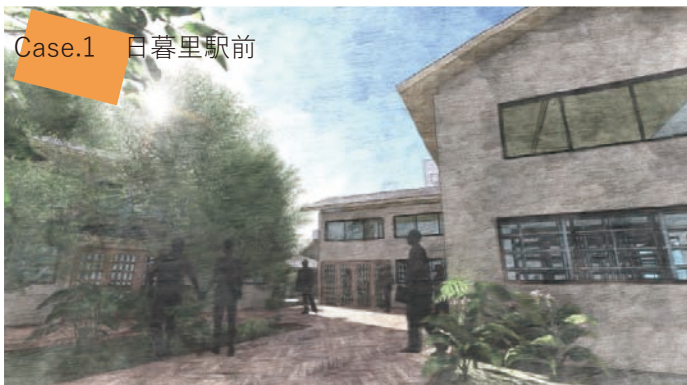
来訪者

店舗に訪れるだけでなく、
制作の様子も見ることができる

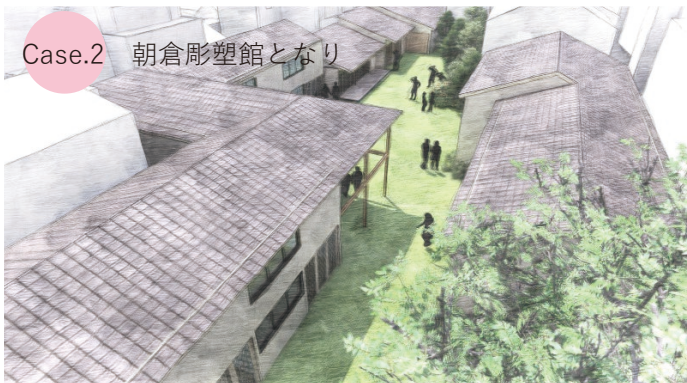
リビング、ダイニング、キッチンでは来訪者とシェアし、
一部は貸しアトリエを設けることで、来訪者が関わる足
掛かりとする。

これらで構成された施設＝村を周辺の空き地に波及させ
ていくことで、芸術によって人が繋がる道となる。

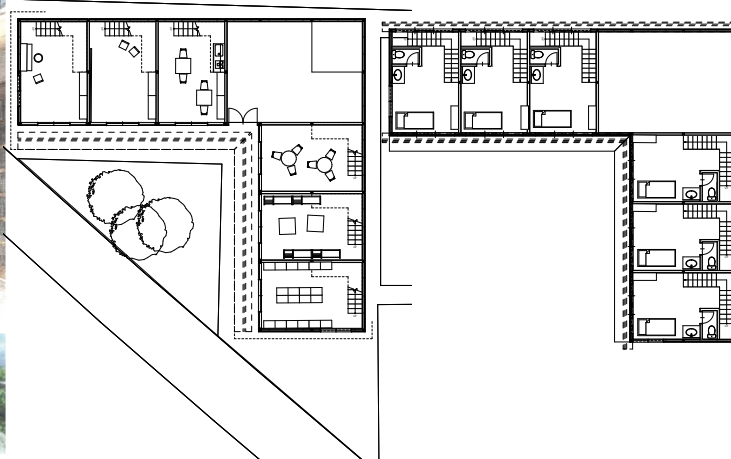
Case.1 日暮里駅前



Case.2 朝倉彫塑館となり



Case.3 三角州



Case.4 市田邸となり

